

科目分類	専門職の教育			開講学科	看護学科
科目番号	学年	担当セメスター	区分	単位数	授業時間数
11007	1	後期	選択	2	30
授業科目名 (英文)	生活健康科学 (Life Health Science)				
担当教員名	河合 文				
授業の概要及び到達目標					
<p>○概要：人の多様性をさまざまな環境への生物学的適応・文化的適応という観点から説明する。具体的にはマレーシアの狩猟採集民等の事例を用いつつ、生業、食物、人口といった点について講義する。また、地球環境と人の関係を人類進化の観点から読み解き、地球規模の環境問題といった現代のテーマについても、人類生態学的な考え方を紹介する。</p> <p>○到達目標：人と環境の相互作用に着目して考察する方法を学ぶことで、人の多様性、暮らしの多様性についての理解を深める。特に人を文化をもつ生物として位置づけ、広い視野にたって考察する力を高め、現代日本社会を新たな側面から捉えることを目標とする。</p>					
準備学習等					
受講生は、授業後に配布資料等を用いた復習を通じて学習内容の定着をはかると同時に、次回の授業開始前に見直すことによって、講義内容の理解の向上に努めることが期待される。また普段から新聞やニュースから積極的に情報収集をするなど、授業時間以外の2時間の自習が求められる。					
成績評価の方法	授業内テスト(60%)および受講状況(40%)に基づいて総合的に評価する。 ※授業内テストは30分で3回行う。				
テキスト	「人類生態学 [第2版]」大塚柳太郎・河辺俊雄ほか：東京大学出版会 (2012)				
参考図書	「大学生物学の教科書 第5巻 生態学」デイヴィッド・サダヴァ, デイヴィッド・ヒリス ほか：講談社 (2014)				
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・オフィスアワー：質問は基本的に授業終了後教室にて受けつける。 ・小テストは返却後授業内に解説を行う。 ・何等かの事情により試験を受けられなかった場合、追試験については個別に対応する。 ・卒業認定・学位授与の方針と当該授業の関連については、別途明示している各学科の履修系統図をご確認ください。 				

授 業 計 画

第1回：イントロダクション

講義の概要、スケジュール、評価方法についての説明など、オリエンテーションを行う。

第2回：生態系と人類の特性

地球環境の多様性を理解すると同時に、生態系の一構成員としてのヒトの特異性を考える。

第3回：人類の進化と環境への適応

ヒトの身体形質の特徴を、他の生物と比較しつつ環境適応と進化という観点から理解する。

第4回：生業様式と社会構造

生態環境への適応戦略としての生業（狩猟採集、漁撈、牧畜）について、その集団の社会構造とともに理解する。

第5回：生業様式と社会構造

生態環境への適応戦略としての生業（移動農耕、集約的農耕）について、その集団の社会構造とともに理解する。

第6回：テスト 近代社会の特徴

生業中心の社会と比較しつつ近代社会の発達とその特徴を理解する。

第1～第5回までの内容の小テストを実施する。

第7回：近代社会の特徴 2

生業中心の社会と比較しつつ近代社会の発達とその特徴を理解する。

テストの返却と解説を行う。

第8回：食と栄養

世界の主食に着目しつつ、食と栄養について考える

第9回：身体適応

ヒトの身体形質の多様性を多様な環境への適応という観点から考える。

第10回：病気の生態学

伝染病を中心に、環境と病気の関係、また病気と文化の関係について考える。

第11回：人口変動と人口問題

経済・社会の変化と出生や死亡にもとづく人口変動の関係について理解する。

第6回～10回の内容について小テストを実施する。

第12回：人口変動と人口問題

経済・社会の変化と出生や死亡にもとづく人口変動の関係について理解する。

小テストの返却と解説を行う。

第13回：エネルギーと資源

人が利用するエネルギーの変遷を理解し、現代社会の特徴を認識する。

第14回：ライフスタイルと環境

人が作り出した化学物質の身体への影響について理解する。

第15回：地球環境と人

先進国と途上国の差異を含め、今日のグローバルな環境問題について理解する。

第11回～15回を中心とした全体のテストを実施する。